

前年度（2025年度）評価結果からの変化とその要因（カタクチイワシ対馬暖流系群）

ポイント

- 2025年の漁獲尾数は過去最低であり、特に0歳魚が非常に低い値となった（図1）
- 加入量や親魚量を反映していると考えられる資源量指標値※1も、2025年はすべて低い値となった（図2）
- これらのデータに基づき評価した結果、2025年の加入量と親魚量は、前年度評価よりも低下し、2025年の加入量は過去最低となった（図3）
- 2025年の低い加入量や親魚量にとともに、2026年以降の将来予測における加入量・親魚量・漁獲量なども、前年度評価よりも大幅に低く見積もられた（図3、2027年の平均漁獲量：3.1万トン → 0.2万トン※3）

※1 本系群では、以下の3つの資源量指標値を使用

- 長崎CPUE：長崎県の中・小型まき網の1日1隻あたりの漁獲量（CPUE）であり、加入量を反映している資源量指標値として使用
- 産卵量：調査で採集された卵数であり、親魚量を反映している資源量指標値として使用
- 仔魚密度：調査で採集された仔魚数であり、加入量を反映している資源量指標値として使用

※2 2027年のABC

データの更新および変更

- 資源量指標値※1のうち、長崎CPUEについては、有漁データ※3のみを使って求めたCPUEから、全データを使って求めたCPUEへ変更
- 仔魚密度も、新たな資源量指標値として追加
- これらの資源量指標値の変更や追加も、前年度評価結果からの変化に影響

※3 カタクチイワシが漁獲された操業データ

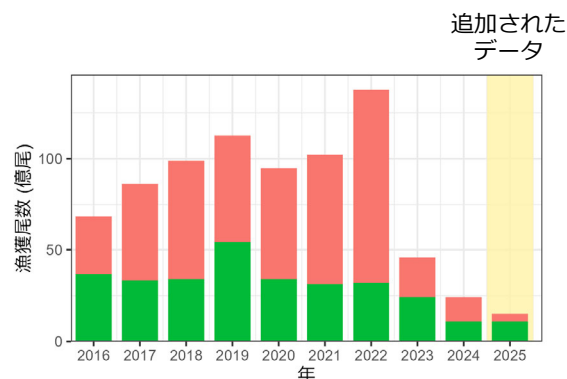


図1 年齢別漁獲尾数

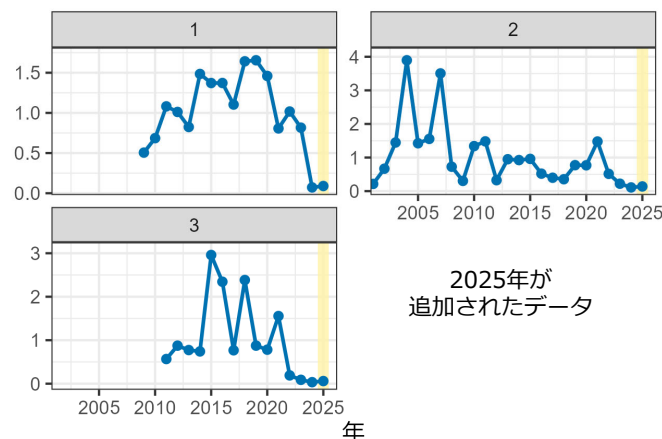


図2 資源量指標値

1：長崎CPUE、2：産卵量、3：仔魚密度
縦軸は平均が1となるように規格化した値

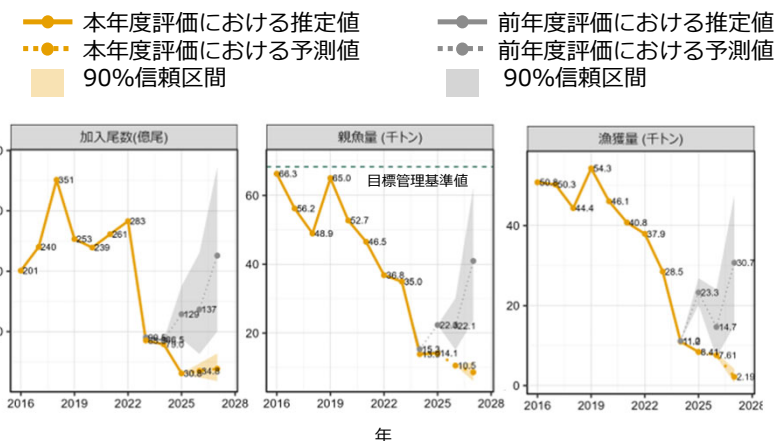


図3 本年度（2026年度）と前年度（2025年度）の評価結果

2027年のABC：本年度評価における2027年の平均漁獲量
2026年のABC：前年度評価における2026年の平均漁獲量
前年度評価における2025年の漁獲量は近年の平均的な漁獲圧に基づき算出
本年度評価における2026年の漁獲量は2025年の漁獲圧に基づき算出
前年度評価における2026年以降の漁獲量および本年度評価における2027年の漁獲量は漁獲シナリオに基づき算出